

(倫理様式 2-2-1)

介護ロボット（離床センサー）運用基準作成までの取組み 第1報

1. 研究の対象

公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設 アルボース看護介護部職員 56名

2. 研究目的・方法

① 研究の目的・意義

高齢化に伴い介護を必要としている人が増える一方、介護現場では人手不足が深刻な問題となっている。人材不足対策の一環で多くの介護現場で取り入れている離床センサーを使用する状況が増えており、当施設でも平成24年にコールマット・コードレスベッドセンサ(テクノスジャパン製)を導入した。導入当初から機器の設置基準は現場の判断において転倒事故を起こす可能性が高いと思われる方を対象にしているが転倒の件数は減っていない現状にある。また令和元年にはセンサーを使用している同じ利用者が1年に2回骨折するという転倒による事故が起きた。そのため離床センサーの運用について見直しが必要であると判断した。

そこで本研究は、職員へのアンケートにより離床センサーの運用についての考え方や意見の違いを明らかにするため調査を行う。

② 研究の方法・期間

方法: アンケート調査から離床センサーの使用目的など意見の違いがないかを分析する。

期間: 倫理委員会承認後～令和3年8月29日(第29回 日本介護福祉学会大会当日)

3. 研究に用いる試料・情報の種類

看護介護部職員から返信されたアンケート用紙の回答内容・所属・職種・経験年数等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者: 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設 アルボース
看護介護部 熊澤 誠